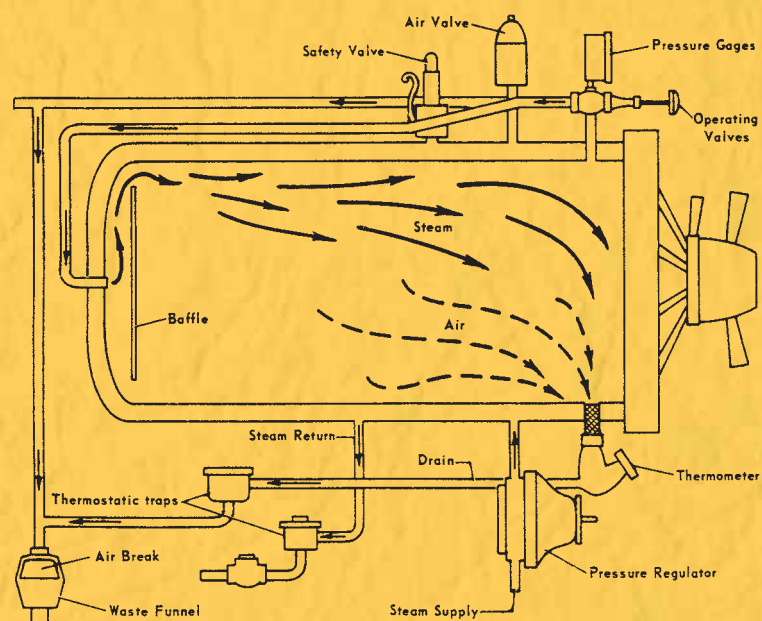


熊本県滅菌業務研究会会報

熊本県滅菌消毒法講座200回記念講演会プログラム

第 4 号

2007年 9 月



熊本県滅菌業務研究会

熊本県滅菌業務研究会会報

熊本県滅菌消毒法講座200回記念講演会プログラム

第 4 号

2007年 9 月

熊本県滅菌業務研究会

熊本県滅菌業務研究会 200 回記念講演会プログラム

受付開始 9:20～

オリエンテーション 9:55～

開 会 10:00～

一般演題 10:30～

座長：柴田 義浩、田上 幸恵

「院内感染防止への取り組み ～一時洗浄廃止への試み～」

熊本リハビリテーション病院 松田亜希子

「感染防御に対する意識改革への取り組み

～スタンダードプリコーションの徹底を目指して～」

熊本地域医療センター 有田 静香

記念講演Ⅰ 11:00～

座 長：後藤 俱子

「医療器材に起因する感染例とその対策」

山口大学医学部附属病院薬剤部 助教授 尾家 重治先生

昼食休憩 12:00～13:15

一般演題 13:15～

座 長：竹下 次郎、荒木ちえみ

「パソコンを媒介とした水平感染防止の取り組み」

国立病院機構熊本医療センター 北川 貴章

「IC タグを用いた滅菌器材管理システムの紹介」

熊本大学医学部附属病院 瀧下 裕子

記念講演Ⅱ 13:45～

座 長：尾方 信也

「手術部・材料部のイノベーション－感染予防と人員配置－」

東京医療保健大学大学院感染制御学 教授 大久保 憲先生

休 憩 14:45～15:00

記念講演Ⅲ 15:00～

座 長：青木 範充

「滅菌供給部門の現状と課題」

東京医療保健大学大学院 学長 小林 寛伊先生

総 括 16:00～ 青木 範充

閉 会 16:30

目 次

○ご挨拶	1
熊本大学医学部附属病院 副院長 猪股裕紀洋	
○200回記念熊本滅菌業務研究会をお祝いして.....	2
八代総合病院・河浦町立病院 名誉院長 伊佐 二久	
○200回記念によせてひとこと	3
熊本赤十字病院国際医療救援部 顧問 浅井 淳	
○200回記念に寄せて	4
国保水俣市立総合医療センター麻酔科 部長 尾方 信也	
○200回記念に寄せて	5
玉名地域医療保健センター 元総婦長 永山 キヨ	
○200回記念によせて	7
熊本中央病院健診センター 所長 後藤 俱子	
○会のお世話をされる方々に感謝して	8
出水総合医療センター 中央手術室 医長 竹下 次郎	
○ご挨拶	9
熊本県滅菌業務研究会 会長 前田 幸子	

熊本県滅菌業務研究会200回記念講演会

記念講演Ⅰ 医療器材に起因する感染例とその対策	13
山口大学医学部附属病院薬剤部 助教授 尾家 重治先生	
記念講演Ⅱ 手術部・材料部のイノベーション ―感染予防と人員配置―	14
東京医療保健大学大学院感染制御学 教授 大久保 憲先生	
記念講演Ⅲ 滅菌供給部門の現状と課題	20
東京医療保健大学大学院 学長 小林 寛伊先生	
一般演題	
○院内感染防止への取り組み ～一次洗浄廃止への試み～	21
熊本リハビリテーション病院 松田亜希子	
○感染防御に対する意識改革への取り組み ～スタンダードプリコーションの徹底を目指して～	22
熊本地域医療センター 手術室 有田 静香	

○ パソコンを媒介とした水平感染防止の取り組み	25
国立病院機構熊本医療センター 北川 貴章	
○ IC タグを用いた滅菌器材管理システムの紹介	28
熊本大学医学部附属病院 瀧下 裕子	

一般演題集録

01 熊本中央病院手術室内の環境調査と検討	[第102回]	35
熊本中央病院手術室 栗崎レイ子		
02 物品管理システムの紹介	[第106回]	36
熊本大学医学部附属病院 中央材料部 大塚 益弘		
03 滅菌コンテナ導入における手術器械セットの見直し	[第106回]	38
健康保険八代総合病院 手術部 高木 伸子		
04 第4回セントラルサービス国際会議報告	[第109回]	39
熊本中央病院 中央材料室 久我紀美子		
05 包装用不織布の防水性の比較	[第111回]	41
熊本大学医学部附属病院 中央材料部 大塚 益弘		
06 パソコンを利用した医療用消耗物品の発注と在庫管理業務の改善を試みて	[第115回]	44
健康保険八代総合病院 器材部 藤井 裕		
07 長鑷子の単包化への取り組み	[第117回]	46
熊本大学医学部附属病院 中央材料部 大塚 益弘		
08 ウォッシャー・ディスインフェクターの洗浄効果に関する検討 ― その1 ―	[第119回]	50
熊本大学医学部附属病院 中央材料部 土田 勝博		
09 手術部の物品請求方法の改善	[第123回]	53
健康保険八代総合病院 器材部 藤井 裕		
10 本院における中央材料部業務外部委託の現状	[第125回]	55
熊本大学医学部附属病院 中央材料部 戸部 幸恵		
11 病院移転を契機とした消毒法の改善について ― ウォッシャー・ディスインフェクター導入と消毒剤種類削減の効果 ―	[第131回]	58
熊本中央病院薬局 主任薬剤師 入江 英治		
12 手術器械使用後の再生業務の移管	[第133回]	63
健康保険八代総合病院 手術部・器材部 園田 信子		

ご挨拶

熊本大学医学部附属病院 副院長
猪股裕紀洋

熊本県滅菌業務研究会が発足 31 年を経過し、その開催する滅菌消毒法講座が 200 回記念の節目を迎えられたことをお祝いいたしまして、新米ながら熊本大学医学部附属病院中央材料部長を現在お預かりする立場としてご挨拶申し上げます。

病院の材料部業務の中で、滅菌業務は物流とならんで大きな要素を占め、目立たないながらも中央サービスとして医療遂行に大きな役割を担っています。私はちょうど 30 年前に医師になりましたが、その頃の事を思うと、おそらくは、シンメルで注射筒やピンセットを「炊いていた」頃からこの講座は始まっていたものと推測いたします。この間、医療領域での技術革新もめざましいものがあり、滅菌業務領域でも大きな変革が面々と続いてきたのであらうと推測いたします。一方、医療システムやそれを取り巻く社会環境も大きく変わり、リスクマネジメントの概念が病院運営の横糸としてしっかり根を張るようになって、この面での滅菌業務への圧力も厳しさを強めています。さらに、昨今の厳しい病院経営を反映して、安全を担保しつつの効率化圧力はますます高まり、大学病院では年間数億に及ぶこの領域での直接的な経費を考えると、まさにどういう方向へこの業務を導くべきか、研究すべき事はさらに山積しているように思われます。たまたま本年は、熊本大学が全国国立大学医学部附属病院材料部長会議の当番校にあたっており、年末には材料部の諸問題について熊本で会議が開かれます。その中では、滅菌業務の質保証、外部委託、スタッフ教育などの今日的課題についての議論が交わされるものと思います。その内容などもまたこの講座に反映できればと考えております。

今回のこの 200 回の節目にあたって、関係の方々すべてがこれまでのこの講座の意義を回顧しつつ、実務的な課題から将来構想まで含めた滅菌業務の大計をはかり、さらなる発展を目指されることを祈念して、お祝いのご挨拶に代えさせていただきます。

200 回記念熊本滅菌業務研究会をお祝いして

八代総合病院・河浦町立病院 名誉院長

伊佐 二久

昭和 52 年に発足した熊本滅菌業務研究会が 31 年目を迎え、今年 9 月には 200 回記念講演会が行われること心からお慶び申し上げますと共に、これまでお世話いただいた方々に謹んで感謝の意を捧げたいと思います。

また長い間滅菌業務の基礎からご指導いただき、200 回の記念すべき研究会に貴重なご後援を賜る小林寛伊先生、大久保憲先生、尾家重治先生に厚く御礼申し上げます。

「継続は力なり」という言葉がありますが、30 年以上に亘り絶え間なく研鑽を続けてこられた大学病院はじめ各病院の皆様のご努力に敬服しております。

思えば 30 年前に比べて滅菌業務に関する考え方は随分変化してまいりました。私の古い頭では驚くほどの進歩という事が出来ます。しかし基本的な理念、すなわち感染を防ぎ創傷の速やかな治癒と完全な機能的、外見的回復を目指す点においては変わらないと思います。

医療に携わる皆さんは職種の如何を問わず滅菌業務の重要性を認識し、常に最新の滅菌業務を勉強して理想的な医療に従事していただきたいと思います。

過去の世界的発見、発明、例えば脾臓のランゲルハンス島、インスリン、ヘパリン、炭酸ガス、レイノー症候群、ヘリング・ブロイエル反射、副甲状腺、笑気の鎮痛作用、毛細血管の血球発見、水銀血圧計、比色計の発明などほかにもたくさんありますが、20 才前後の若い学生、研修生の手によるものが少なくありません。

若い頭脳は従来の既成観念にとらわれない柔軟性を持ち、それだけに自由な発想と無限の可能性を秘めています。どうか若い皆さん、自信を持って素晴らしいアイデアに取り組み発展させてください。

この才能を生かし、よい方向に延ばしていくのも指導者の責任と思っています。

200 回の記念すべき研究会を迎えるにあたりお祝い申し上げますと共に今後熊本滅菌業務研究会が質、量ともにますます発展されることをお祈りして筆を擱きます。

熊本県滅菌業務研究会
200 回記念講演会

記念講演 I

「医療器材に起因する感染例とその対策」

山口大学医学部附属病院薬剤部 助教授 尾家 重治先生

細菌感染を受けた医療器材に起因する感染例はまれではない。本講演では、これらの例をあげるとともに、その対策に言及する。以下の医療器材について述べる。

1. 鼻咽喉ファイバースコープ
2. 経腸栄養剤の投与バッグ
3. 間欠的自己導尿用カテーテル
4. 超音波ネブライザー
5. 超音波加湿器
6. 処置台
7. 洗面器
8. シャワー用椅子
9. ノズル式容器
10. 恒温槽

記念講演Ⅱ

「手術部・材料部のイノベーション ー感染予防と人員配置ー」

東京医療保健大学大学院感染制御学 教授 大久保 憲先生

熊本県滅菌業務研究会 200回記念講演会 2007

手術部・材料部のイノベーション ー感染予防と人員配置ー

東京医療保健大学 大学院
感染制御学 大久保 憲

イノベーション25戦略会議

2025年の日本
ー未来をつくる、無限の可能性への挑戦ー

- ・ 神経を介さずに義肢などを随意的に制御する技術
- ・ アルツハイマー病の根治薬
- ・ 入浴等を支援する介護ロボット（被介護者に不快感・不安感を与えない）
- ・ 副作用の少ない抗癌剤

- ・ イノベーション25戦略会議
- ・ チーム医療と手術部スタッフ
- ・ 滅菌技士/師の認定
- ・ 材料部のアウトソーシング
- ・ 滅菌保証
- ・ 手術室での感染防止

イノベーション25戦略会議

2025年の日本
ー未来をつくる、無限の可能性への挑戦ー

- ・ 在宅で測定した個人医療情報に基づいて、医師が治療指示・薬剤処方をおこなう遠隔医療
- ・ 動脈硬化の局所療法が可能な遺伝子療法
- ・ 癌に対する遺伝子治療法
- ・ 手術医療が変わる！

イノベーション25戦略会議

2025年の日本
ー未来をつくる、無限の可能性への挑戦ー

- ・ 自宅で電子診療録を見ることができる、個人情報保護された安全な広域医療情報システム
- ・ 人骨と同等の機能を有する生体用セラミックス
- ・ 神経幹細胞移植により運動麻痺の回復
- ・ マイクロマシンによる超小型健康管理デバイス（カプセル1個で健康診断）

病気を治すためのチーム医療

- ・ 医師の力だけではなく、ナースやコ・メディカルスタッフの力が大切
- ・ お互いがコミュニケーションを保ちながら患者のために治療方針や技術を生かしていくべき（お互いの短所が克服できる）
- ・ 医師とナースはパートナーである

手術部における課題

- 手術件数増加と麻酔科医の確保
- 手術部看護師の専門性と認定制度
- DPC (diagnosis procedure combination) を用いた包括支払い制度における在院期間の短縮 (短期滞在型手術への対応)
- 複雑化する機器と内視鏡手術への対応
- 大病院では、面識の薄いスタッフとの術中の協調の問題
- バランスの取れた手術チームの構成が望まれている

Nurse practitioner (NP) の実際

- 手術までは NP のクリニックで診る
- 手術の執刀はしない (Dr が実施)
- 入院中の術後患者は基本的には NPs が診る (外科 Dr の定期回診もある)
- 一般ナースの指導もおこなう

解決の糸口

- 地域における医療の再構築
在院日数の短縮により、病院から地域医療チームへの連携のための医療情報のコミュニケーターの必要性
- 看護師不足への対応
患者看護中心の業務 (専門性) と定年延長
- 医師不足への対応
看護師は専門的技術者として手術介助から術者の一員へ
- 麻酔科医不足への対応??

Clinical nurse specialist : CNS

- CNS
分野別の専門看護師制度
臨床部門、教育部門、研究部門に分かれる
修士が必要であるも、博士が多い
処方権が認められている州もある
協力医が存在する
韓国にも存在する
日本看護協会の専門看護師に相当する

米国の麻酔看護師制度

- 麻酔看護師 nurse anesthetist
専門教育を2~4年間受けるという、しっかりとした教育プログラムに則った歴史ある制度
年間において米国の65%の麻酔を担当し、開心術から白内障手術、一般疼痛管理までをおこなう

Nurse manager と Nurse director の役割

Nurse manager (支配人)

- 日本における看護師長に相当
- 看護師の採用と管理を任されている
- 看護における予算案を作成する

Nurse practitioner : NP (米国)

- NPs
各専門の領域ごとにNPsが存在する
修士以上の取得が必要
処方権がある
診断することができる
開業もできる (クリニック)
背景に協力医が存在する

手術室の director

Nurse director (指揮者)

- 手術予定表の作成に関わる
- どの医師に手術させるかを決定する
- 手術成績の実績評価が必要
SSIサーベイランスの結果
癌手術成績の評価結果
病院の quality 部門の評価も参考にする
Healthcare informaticsに精通した「診療情報管理士」が、適切な情報を整理して、必要な部署に提供できる体制が求められている

記念講演Ⅲ

「滅菌供給部門の現状と課題」

東京医療保健大学大学院 学長 小林 寛伊先生

院内感染防止への取り組み ～一次洗浄廃止への試み～

熊本リハビリテーション病院 ○松田亜希子、中山由香

はじめに

中材の役割は院内物品の供給、洗浄、消毒、滅菌の一連のプロセスを効果的に成し遂げることである。当院では平成18年7月まで一次洗浄業務を病棟で行っていた。洗浄に関する教育を受けていないスタッフが、病棟において器材洗浄を行うことは洗浄の効果が確保できず、又血液暴露などの問題もあり感染拡大へつながる事が懸念された。そこで今回院内感染防止を目的として病棟における器材の一次洗浄廃止を試みた。

考 察

一次洗浄廃止に伴い病棟での一次処理が必要であり、病棟と中材が一貫した処理を行う事で院内感染防止への対策へ繋がるのではないかと考える。この取り組みによって現在効果的な洗浄が行なえており病棟での一次洗浄廃止が確立された。

実 施

一次洗浄廃止に際し、血液汚染および消毒薬（イソジン）の固着の問題が挙げられた。そこで器材に血液・イソジンをそれぞれ固着させた状態をつくり1～3日間放置した後ウォッシャーディスインフェクターで洗浄した。その後、血液の固着の程度を目視および細菌検査で調査した。

結 果

その結果、消毒薬（イソジン）に対しては3日目で固着が見られた。又血液は1日目から3日目全てにおいて固着が見られた。細菌の検出はなかったが見た目で器材の溝に血液が残っていたため病棟にて一次処理を促す必要があると考えた。そこで血液付着に対しては血液凝固スプレーを使用し固着を防いだ。使用後の器材の運搬は感染の拡大を防止するため密封できるコンテナを用いた。

	一日目	二日目	三日目	細菌検査
イソジン	汚染なし	汚染なし	汚染あり	細菌検出なし
血 液	汚染あり	汚染あり	汚染あり	細菌検出なし
一次処理後	汚染なし	汚染なし	汚染なし	細菌検出なし

以上の結果は、ウォッシャーディスインフェクターにて洗浄後の結果である。

感染防御に対する意識改革への取り組み ～スタンダードプリコーションの徹底を目指して～

熊本地域医療センター手術室 ○有田静香、伊牟田紀代美、木下トモ子

はじめに

熊本県滅菌業務研究会をはじめ、いくつかの研修に参加し学んでいく中で、現場ではスタンダードプリコーションに沿った行動が出来ていない事に気付かされた。そこで、その原因を調査・分析し解決策を見出し取り組んだ結果、スタッフの感染防御に対する意識に変化がみられたので報告する。

用語の定義

感染防御具とは、血液・体液に汚染される環境下で使用するゴーグル・手袋・アイソレーションガウン・靴の事を意味する。

研究方法

1. 研究期間

H17年6月～H18年3月

2. 対象

手術室スタッフ14名（看護師12名・看護助手2名）

3. 方法

- 1) スタンダードプリコーションに関するアンケート調査を実施
- 2) アンケート結果を分析、問題点を抽出し解決に向けて計画・実施
- 3) 評価（「標準予防策チェックシート」を作成し、評価の指標に用いる）

結果・考察

アンケートの結果、スタンダードプリコーションに沿った行動が実践できない理由として、感染防御に対する知識不足・意識の甘さ・業務の習慣化が挙げられた。（図1）そこで、カンファレンスや勉強会の開催、ポスター提示など防御策の必要性について啓蒙活動を行った。（図2・3）主な内容として、廃棄時の血液の飛び跳ねる状況を実験し、曝露の怖さや感染に対する知識を伝える事で、自分たちが日常業務の中でどれだけ感染にさらされているか、実感してもらった。その後、カンファレンスの中で「血液や体

液にさらされる時は注意しなければいけない」「こんなに曝露されているなんて思いもしなかった」等、曝露・感染に対する危機感が言葉として発せられるようになり、手術室専用の靴を導入するようになった。また、設備面としては、忙しくてもすぐ使用できるような動線上に手指消毒薬を配置し、設置数を増やす事で使用回数が上がった。

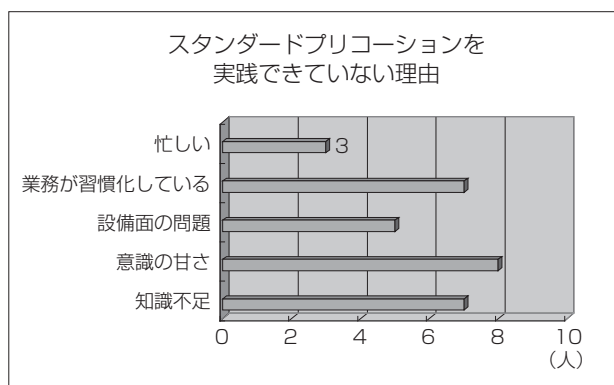


図1



図2



図3

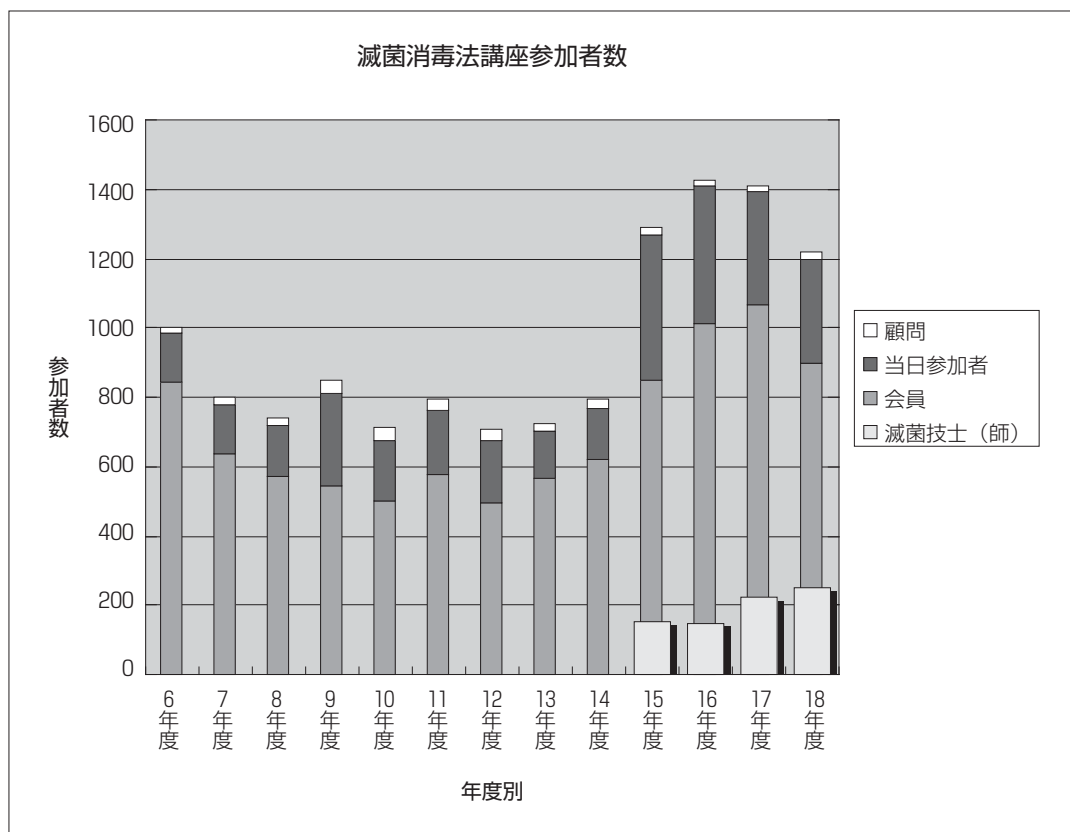
熊本県滅菌業務研究会
200 回の歩み

日本医科器械学会認定の滅菌技士（師） 再認定単位取得講座として

当熊本県滅菌業務研究会が開催しております滅菌消毒法講座に、日本医科器械学会より滅菌技士（師）再認定時の単位取得講座としてのご依頼がありました。それまでも、医科器械学会の先生方には、当講座の講師としてご指導をいただいております。小林先生は平成元年から、大久保先生は平成3年、藤井先生は平成5年、松田先生は平成6年からご講演をお願いいたしておりましたので、先生方のお力添えの賜物と感謝いたしております。

第2種滅菌技士は全国で約1,800名、熊本県内は66名、第1種滅菌技師は全国で107名、県内は6名とお聞きしております。皆様のご努力を尊敬申し上げます。

以前より、滅菌技士の皆様から、「再認定の単位を取らなければならないが、中央まで行くのには、休みが取れない。」というお言葉をお聞きしておりましたので、平成15年度から、滅菌技士（師）再認定時の単位取得講座として、お手伝いをさせていただくことになりました。下記（図1）は、年間の当講座参加者総数と滅菌技士（師）参加数です。熊本県滅菌業務研究会も滅菌技士（師）の皆様のご協力を得て、滅菌業務に関する学習、情報交換の場として、地域の皆様のお役に立てるよう務めてまいりたいと思います。



熊本県滅菌業務研究会の歩み

	開催日	講 演 内 容	講 師
第1回研究会	S52.07.02	研究会発足のための懇親会 滅菌業務従事者の情報交換の場、滅菌業務に関する 研究会として発足	発起人 国立熊本病院中材婦長 吉井道子 司会進行 松岡ケイ子
第2回研究会	S52.	研究会運営方針、情報交換「今後の研究会をどう発展させるか」	
第3回研究会	S52.11.26	講演「ガス滅菌について」	サクラ精機 KK 平井
第4回研究会	S53.04.15	講演「滅菌バッグについて」	ホギ KK 企画開発部 中村修二
第5回研究会	S53.09.30	講演「院内感染防止について」 会則の作成	ナニワ医科工業 KK 設計技術部長 白井惣之助
第6回研究会	S53.12.02	講演「ステリハイドについて」	石丸製薬 KK
第7回研究会	S54.02.18	講演「米国における滅菌管理の現状について」	アメリカミズリー大学微生物学教授 フランク・エングレー
第8回研究会	S54.05.19	講演「一般的消毒について」	熊本大学医学部附属病院薬剤部副部長 岩奥玲子
第9回研究会	S54.09.22	講演「ディスポ製品について」	テルモ・ジャパン KK 社員
第10回研究会	S54.12.01	ゼミナール「高圧蒸気滅菌について」 「EOG 滅菌について」 「超音波洗浄について」	
第11回研究会	S55.02.16	講演「院内感染とその防止対策」	国立大阪大学医学部附属病院検査部部長 神木照雄
第12回研究会	S55.07.12	講演「苦悩する中材業務」	健康保険八代総合病院麻酔科部長 青木範充
第13回研究会	S55.11.29	グループ討議 A. EOG 滅菌について B. 洗浄法について C. 院内感染について	討議助言者 健康保険八代総合病院院長 伊佐久二 // 麻酔科部長 青木範充
第14回研究会	S56.04.25	講演「院内感染防止および消毒法について」	国立療養所熊本再春荘病院薬剤部部長 多賀泰雄
第15回研究会	S56.09.12	講演「EOG 滅菌について」	健康保険八代総合病院麻酔科部長 青木範充
第16回研究会	S57.01.23	講演「米国における中材業務の現状」	健康保険八代総合病院麻酔科部長 青木範充
第17回研究会	S57.05.29 S57.05.30	講演「高圧蒸気滅菌装置の取り扱いについて」 実技研修：高圧蒸気滅菌装置の取り扱い	千代田制作所 中条敏行 千代田制作所 中条敏行
第18回研究会	S57.11.20	講演「超音波洗浄装置について－その使用上の問題点－」	シャープ KK 技術部
第19回研究会	S58.02.26	一般演題「中材業務の現状と問題点」 「アンケート調査結果報告」 講演「手術室の清潔管理について」 *会員の研究発表開始	熊本赤十字病院中央材料室 岩下三生 熊本大学医学部附属病院中央材料部 沼田和子 国立熊本病院麻酔科部長 宮崎久義
第20回研究会 20回記念特別講演	S58.06.20	講演「感染症の変貌」 「院内感染とその防止対策」	長崎大学学長 福見秀雄 岩手大学医学部滅菌学教授 川名林治
第21回研究会	S58.07.09	講演「滅菌と消毒－その考え方－」 「滅菌と消毒－その実際－」	熊本大学医学部附属病院薬剤部無菌製剤室長 浜田達幸 熊本大学医学部附属病院薬剤部製剤室長 飛野幸子
第22回研究会	S58.09.03	施設見学：健康保険八代総合病院手術室・滅菌材料室	健康保険八代総合病院麻酔科部長 青木範充
第23回研究会	S59.03.10	一般演題「医療用消耗物品の中央移管について」 「中材業務アンケート集計結果報告」	健康保険八代総合病院中央材料室 山口記代 熊本大学医学部附属病院中央材料部 堀美恵子
第24回研究会	S59.06.16	グループ討議 A. オートクレーブについて B. ガス滅菌について C. 洗浄法について	

	開催日	講演内容	講師
第25回研究会	S59.11.10	講演「ディスポ製品の安全管理について」 A. ガンマー線滅菌について B. 滅菌工程における安全（品質）管理について C. 販売ルート（メーカー出庫から病院納入まで）における安全管理 D. ディスポーザブル製品の保管管理（使用現場における安全管理） E. 気管内チューブ、カニューレの再生について	テルモジャパン KK 相馬 清 ニプロ KK 増田正夫 日本メディカルサプライ 小早川清和 トップ KK 山際裕一 日本メディコ KK 木下久雄
第26回研究会	S60.04.13	一般演題 「業務の省力化に関する一検討 －気管吸引器材消毒液の細菌培養を試みて－」 講演「医療用消耗物品の中材管理」 ＊年会費2000円を年度のはじめに一括徴収、会員証発行を開始	熊本地域医療センター中央材料部 土持 肇 健康保険八代総合病院麻酔科部長 青木範充
第27回研究会	S60.07.13	講演「危険病原体の管理に関する世界の現状」 ＊滅菌消毒法講習会に関するアンケート調査	国立熊本病院院長 横田 功
第28回研究会	S60.11.13	一般演題 「コンピュータによるディスポ製品の管理について」 「中央滅菌材料室の案内作成について」 「卓上小型自動滅菌器の滅菌効果の判定」 講演「これからの中央材料部を考える」	熊本大学医学部附属病院中央材料部 羽山弓子 国立熊本病院中央滅菌材料部 村上智賀子 健康保険八代総合病院手術部 松永みさ子 玉名地域医療保険センター総婦長 永山キヨ
第29回研究会	S61.03.08	一般演題「ゴム手袋の手術時破損状況調査」 「手術部における滅菌物の管理」 講演「手術室内浮遊塵埃数の長時間連続測定」 「手術室内浮遊塵埃の動向」 「手術室内の微生物汚染度調査」	熊本市民病院中央手術室 伊藤直美 健康保険八代総合病院手術部 小林千代子 熊本大学医学部附属病院中央手術部 櫛山三蔵 熊本大学医学部附属病院中央手術部 櫛山三蔵 熊本赤十字病院麻酔科部長 浅井 淳
第1回講習会	S61.05.10	講演「滅菌の原理」 「滅菌法－高圧蒸気、エチレンオキシド、その他－」 ＊国立熊本病院地域医療研修センター開設に伴い、中央材料部業務に関するセミナー「滅菌消毒法講習会」を開講（年間5回を1クールとする）	国立熊本病院麻酔科部長 宮崎久義 熊本市民病院麻酔科部長 尾方信也
第30回研究会	S61.06.08	講演「中材業務の現状と将来」 「水痘生ワクチンの開発と研究」	浜松医科大学麻酔科教授 池田和之 大阪大学微生物研究所教授 高橋理明
第2回講習会	S61.07.21	講演「滅菌装置」 「滅菌効果の確認」	熊本赤十字病院麻酔科部長 浅井 淳 熊本赤十字病院麻酔科部長 浅井 淳
第3回講習会	S61.09.13	講演「回収と再生」 「ディスポーザブル医用器材の管理」	熊本大学医学部附属病院中央材料部婦長 堀恵美子 国立熊本病院中央材料室婦長 村上智賀子 健康保険八代総合病院麻酔科部長 青木範充
第4回講習会	S61.10.11	講演「消毒法」 「建設設備と人的構成」	熊本大学医学部附属病院薬剤部副部長 岩奥玲子 健康保険八代総合病院麻酔科部長 青木範充
第31回研究会	S61.11.28	一般演題「気管内チューブの再生回数と廃棄の原因」 「チューブ類の再生処理の工夫」 現状報告「物品及び衛生材料の使用状況」 講演「職場を楽しくするために」	健康保険八代総合病院手術部 宮本尚枝 健康保険八代総合病院器材部 堀田都美子 玉名地域医療保険センター 勘米良和代 山鹿市立病院院長 飛松辰典
第5回講習会	S62.02	講演「中材のあり方と業務の範囲」	健康保険八代総合病院麻酔科部長 青木範充
第32回研究会	S62.03.07	一般演題「手術室清潔保持のための改善と現状報告」 「超音波洗浄の洗浄効果テストを試みて」 「EOG 滅菌作業の安全性について －滅菌物取り出し時期の再検討－」 講演「中材業務と教育」	公立玉名中央病院中央材料室 村上孝子 山鹿市立病院中央材料室、手術室 金山幸子 熊本大学医学部附属病院中央材料部 中村範幸 熊本大学医療技術短期大学看護学科教授 園田志津子
第6回講習会	S62.05.16	講演「蒸気滅菌とガス滅菌の実際と注意点」	看護部長 京谷光子

熊本県滅菌業務研究会役員の歩み

(第1回役員会)

昭和52年度

会 長：吉井 道子(国立熊本病院)
副 会 長：中田 栄子(熊本大学医学部附属病院)
書 記：津村 春美(熊本赤十字病院)
会 計：坂本 恵子(熊本中央病院)
監 事：丸山美枝子(水俣市立病院)
林田戦太郎(国立熊本病院)
杉野 圭一(熊本大学医学部附属病院)

昭和54年度

会 長：中田 栄子(熊本大学医学部附属病院)
副 会 長：吉井 道子(国立病院)
書 記：杉野 圭一(熊本大学医学部附属病院)
会 計：坂本 恵子(熊本中央病院)
監 事：大竹 勝子(済生会熊本病院)
野口 久子(熊本鉄道病院)
岩本 道子(託麻台病院)
江藤 鉄喜(国立療養所熊本再春荘病院)
岩下 三圭(熊本赤十字病院)

昭和56年度

会 長：堀 美恵子(熊本大学医学部附属病院)
副 会 長：岩下 三圭(熊本赤十字病院)
中本ユリ子(熊本通信病院)
書 記：奥村 孝子(国立療養所熊本南病院)
上野貴代子(機能病院)
会 計：中村 範幸(熊本大学医学部附属病院)
監 事：嘉永 静江(自衛隊熊本病院)
日田 雅子(成尾整形外科病院)
会計監査：中山喜美子(国立三角病院)

昭和58年度

会 長：堀 美恵子(熊本大学医学部附属病院)
副 会 長：中本ユリ子(熊本通信病院)
村上智賀子(国立熊本病院)
書 記：池嶋 元子(熊本市市民病院)
富田 浅子(済生会熊本病院)
会 計：中村 範幸(熊本大学医学部附属病院)
監 事：山口 記代(健康保険八代総合病院)
会計監査：嘉永 静江(自衛隊熊本病院)
小島 幸一(国立療養所熊本再春荘病院)

昭和59年度

会 長：堀 美恵子(熊本大学医学部附属病院)
副 会 長：中本ユリ子(熊本通信病院)
村上智賀子(国立熊本病院)
書 記：池嶋 元子(熊本市市民病院)
富田 浅子(済生会熊本病院)
会 計：中村 範幸(熊本大学医学部附属病院)
監 事：山口 記代(健康保険八代総合病院)
会計監査：嘉永 静江(自衛隊熊本病院)
小島 幸一(国立療養所熊本再春荘病院)
久木田麻素美(熊本赤十字病院)

昭和62年度

会 長：堀 美恵子(熊本大学医学部附属病院)
副 会 長：中本ユリ子(熊本通信病院)
池嶋 元子(熊本市市民病院)
書 記：佐藤由紀子(国立三角病院)
柴原 久美(熊本地域医療センター)
会 計：久木田麻素美(熊本赤十字病院)
会計監査：小島 幸一(国立療養所熊本再春荘病院)
久我紀美子(熊本中央病院)

昭和63年度

会 長：池嶋 元子(熊本市市民病院)
副 会 長：坂梨 憲子(熊本地域医療センター)
進藤美智子(健康保険八代総合病院)
書 記：久我紀美子(熊本中央病院)
堀 孝子(人吉総合病院)
会 計：谷川ハツエ(熊本大学医学部附属病院)
監 事：田上 睦子(国立熊本病院)
松本美穂子(公立玉名中央病院)
勘米良和代(玉名地域医療保健センター)
会計監査：田中 栄子(国立療養所菊池恵楓園)
吉田 芳美(国立三角病院)

平成元年

会 長：池嶋 元子(熊本市市民病院)
副 会 長：坂梨 憲子(熊本地域医療センター)
進藤美智子(健康保険八代総合病院)
書 記：久我紀美子(熊本中央病院)
清島ヒロミ(NTT 九州病院)
会 計：谷川ハツエ(熊本大学医学部附属病院)

監 事：堀 孝子（人吉総合病院）
丸山美枝子（水俣市立病院）
倉原 益子（山鹿市立病院）
黒崎小百合（荒尾市民病院）
会計監査：西山 雅子（自衛隊熊本病院）
松岡ケイ子（国立熊本病院）

平成2年度

会 長：池嶋 元子（熊本市民病院）
副 会 長：久我紀美子（熊本中央病院）
坂梨 憲子（熊本地域医療センター）
書 記：清島ヒロミ（NTT 九州病院）
白木あつ子（自衛隊熊本病院）
会 計：戸部 幸恵（熊本大学医学部附属病院）
監 事：丸山美枝子（水俣市立病院）
倉原 益子（山鹿市立病院）
園田 信子（健康保険八代総合病院）
会計監査：松岡ケイ子（国立熊本病院）
黒崎小百合（荒尾市民病院）

平成3年度

会 長：戸部 幸恵（熊本大学医学部附属病院）
副 会 長：久我紀美子（熊本中央病院）
松岡ケイ子（国立熊本病院）
書 記：白木あつ子（自衛隊熊本病院）
富永比佐代（NTT 九州病院）
会 計：土持 蕾（熊本地域医療センター）
監 事：池嶋 元子（熊本市民病院）
丸山美枝子（水俣市立病院）
園田 信子（健康保険八代総合病院）
米崎恵美子（公立玉名中央病院）
今井 泰代（熊本整形外科病院）
村本 孝子（熊本セントラル病院）
会計監査：黒崎小百合（荒尾市民病院）
木山 敏子（国立療養所再春荘病院）

平成4年度

会 長：戸部 幸恵（熊本大学医学部附属病院）
副 会 長：久我紀美子（熊本中央病院）
松岡ケイ子（国立熊本病院）
書 記：白木あつ子（自衛隊熊本病院）
富永比佐代（NTT 九州病院）

今井 泰代（熊本整形外科病院）
会 計：土持 蕾（熊本地域医療センター）
監 事：池嶋 元子（熊本市民病院）
園田 信子（健康保険八代総合病院）
米崎恵美子（公立玉名中央病院）
村本 孝子（熊本セントラル病院）
嘉永 清江（自衛隊熊本病院）
会計監査：黒崎小百合（荒尾市民病院）
木山 敏子（国立療養所再春荘病院）

平成5年度

会 長：戸部 幸恵（熊本大学医学部附属病院）
副 会 長：久我紀美子（熊本中央病院）
坂梨 憲子（熊本地域医療センター）
書 記：今井 泰代（熊本整形外科病院）
岩戸久美代（NTT 九州病院）
会 計：村本 孝子（熊本セントラル病院）
嘉永 清江（自衛隊熊本病院）
監 事：松岡ケイ子（国立熊本病院）
黒崎小百合（荒尾市民病院）
園田 信子（健康保険八代総合病院）
本田 勝子（熊本市民病院）
徳永 千春（玉名地域医療センター）
会計監査：立花 肇（国立療養所再春荘病院）
上野 睦敦（西日本病院）

平成6年度

会 長：戸部 幸恵（熊本大学医学部附属病院）
副 会 長：久我紀美子（熊本中央病院）
坂梨 憲子（熊本地域医療センター）
書 記：今井 泰代（熊本整形外科病院）
岩戸久美代（NTT 九州病院）
会 計：本田 勝子（熊本市民病院）
監 事：松岡ケイ子（国立熊本病院）
倉原 益子（山鹿市立病院）
黒崎小百合（荒尾市民病院）
園田 信子（健康保険八代総合病院）
会計監査：立花 肇（国立療養所再春荘病院）
上野 睦敦（西日本病院）
徳永 千春（玉名地域医療センター）
今村りえ子（西日本病院）

熊本県滅菌業務研究会顧問の歩み

顧問氏名	当 時 の 職 位
青木 範充	山口病院（健康保険八代総合病院 名誉院長）（～平成19年）
浅井 淳	熊本赤十字病院国際医療救援部 顧問（昭和54年～平成19年）
尾方 信也	国保水俣市立総合医療センター 麻酔科医長（～平成19年）
片山 則孝	八代総合病院 病院長（～平成10年）
後藤 俱子	熊本中央病院健診センター 所長（～平成19年）
永山 キヨ	玉名地域保健医療センター 総婦長（昭和53年～平成11年、平成14年～平成19年）
蜂田 功	公立熊本病院 院長（昭和53年～平成3年）
宮崎 久義	熊本医療センター 病院長（～平成19年）
宮崎 寛子	熊本地域医療センター 看護部長（～平成5年）
森岡 亨	高野病院 麻酔科部長（～平成17年）
堀 恵美子	熊本大学医学部附属病院 副看護部長（昭和63年～平成6年）
飛松 辰典	山鹿市民病院 院長（～平成3年）
広田 耕三	熊本市民病院（～平成2年）
安武 敏明	国立再春荘病院 院長（～平成2年）
前田 浩	バイオダイナミックス研究所 所長（平成2年～平成19年）
志摩 清	熊本市民病院 院長（平成3年～平成12年）
直江 弘昭	国立療養所再春荘病院 病院長（平成3年～平成6年）
竹下 次郎	出水市立病院 中央手術室医長（平成5年～平成19年）
伊佐 二久	八代総合病院・河浦町立病院 名誉院長（平成6年～平成19年）
江崎 公明	熊本医療センター病院 麻酔科医長（平成6年～平成19年）
牛島 一男	山鹿市立病院 副院長（平成8年～平成19年）
生田 義浩	熊本大学医学部附属病院 中央手術部講師（平成13年～平成19年）
柴田 義浩	国立病院機構熊本再春荘病院 麻酔科医長（平成13年～平成19年）
鈴木 和夫	健康保険人吉総合病院 副院長（平成13年～平成16年）
田口 裕之	熊本大学医学部附属病院 麻酔科助教（平成13年～平成19年）
田上 正	熊本地域医療センター 麻酔科部長（平成13年～平成19年）
原武 義和	済生会熊本病院 麻酔科部長（平成13年～平成19年）
東 兼充	熊本麻酔科クリニック院長（平成13年～平成19年）
満瀬 哲郎	熊本市民病院 中央手術部部長（平成13年～平成19年）
柳 文治	熊本労災病院 麻酔科部長（平成13年～平成19年）
岩戸久美代	NTT 西日本九州病院看護部 看護師長（平成15年～平成17年）



TOS-II-KOO
WASH STATE

最終更新日: 07/22/2007 02:50:20

135

熊本県滅菌業務研究会顧問(平成19年度)

氏 名	勤務施設
青木 範充	山口病院(健康保険八代総合病院 名誉院長)
浅井 淳	熊本赤十字病院国際医療救援部 顧問
伊佐 二久	八代総合病院、河浦町立病院名誉院長
生田 義浩	熊本大学医学部附属病院 中央手術部講師
牛島 一男	山鹿市立病院 副院長
江崎 公明	独立行政法人 国立病院機構熊本医療センター 麻酔科医長
尾方 信也	国保水俣市立総合医療センター 麻酔科医長
後藤 俱子	熊本中央病院健診センター 所長
柴田 義浩	独立行政法人国立病院機構熊本再春荘病院麻酔科 医長
竹下 次郎	出水総合医療センター 中央手術室医長
田上 正	熊本地域医療センター 麻酔科部長
田口 裕之	熊本大学医学部附属病院麻酔科 助教
原武 義和	済生会熊本病院 麻酔科部長
東 兼充	熊本麻酔科クリニック 院長
前田 浩	バイオダイナミックス研究所 所長
宮崎 久義	独立行政法人国立病院機構熊本医療センター 病院長
満瀬 哲郎	熊本市民病院 中央手術部部長
柳 文治	熊本労災病院 麻酔科部長
永山 キヨ	玉名地域保健医療センター 元総婦長

熊本県滅菌業務研究会役員(平成19年度)

氏 名	勤務施設	担 当
荒木ちえみ	独立行政法人国立病院機構熊本再春荘病院 手術・中央材料室	(監 事)
岩戸久美代	NTT 西日本九州病院 看護部	(監 事)
岩本 照記	熊本託麻台病院 手術室・中央材料室	(副 会 長)
出口 隆子	NTT 西日本九州病院 手術室・材料室	(会 計)
木下トモ子	熊本地域医療センター 手術室・材料室	(書 記)
嶋村 幸子	熊本市民病院 中央材料室	(監 事)
徳永 雄規	独立行政法人国立病院機構熊本医療センター中央材料室 ICU	(監 事)
瀧下 裕子	熊本大学医学部附属病院 材料部	(監 事)
田上 幸枝	熊本中央病院 手術室・中央材料室	(書 記)
土田 勝博	熊本大学医学部附属病院 ME 機器センター	(書 記)
何川 栄作	熊本整形外科病院 手術部	(監 事)
西 恵美子	玉名地域保健医療センター 手術室・材料室	(会 計)
藤井 裕	健康保健八代総合病院 器材部	(副 会 長)
前田 幸子	熊本大学医学部附属病院 材料部	(会 長)
宮本 恵子	成尾整形外科病院 手術室	(書 記)
山下美智子	山鹿市立病院 手術室・材料室	(会計監査)

熊本県滅菌業務研究会々則

第1章 総 則

(名 称)

第1条 この会は滅菌業務研究会という。

(事務連絡先)

第2条 この会の事務局は会長の施設におく。

(目 的)

第3条 この会は滅菌業務のあり方、滅菌技法について専門的に研究し、相互の技術向上と情報交換を計る。

(事 業)

第4条 この会は第3条の目的達成のために研修会および研究会、講習会の開催等を行う。

(会 員)

第5条 この会の会員は会則の目的に賛同するもので、医療に直接、間接に携わる者

(会 費)

第6条 会費は年間1人5,000円とする。会員以外の当日研修会への参加は1,500円とする。なお当日テキスト代等として実費徴収すること事がある。

(入 会)

第7条 会員になろうとするときは、所定の会費を納入し随時入会することができる。

(退 会)

第8条 会員が退会しようとするときは、会事務局へ申し出る。
但し、正当な理由なく会費を納入しない場合は退会とする。

第2章 役 員 ・ 顧 問

(機構及び選出)

第9条 ① 本研究会に次の役員を置く。

- | | | | |
|--------|----|-------|----|
| 1)会 長 | 1名 | 2)副会長 | 2名 |
| 3)書 記 | | 4)会 計 | |
| 5)会計監査 | | 6)監 事 | |

② この会は顧問をおくことができる。

(役 員 会)

第10条 ① 役員会は研究会を立案し、日程、研究内容について起案し、事前に会員に知らせる。

② 会計は年1回、収支決算を会員に報告しなければならない。

(任 期)

第11条 役員の任期は二年とする。但し、任期途中で欠員の生じたときは、その残任期間を代行者でこれに当たる。また、再選を妨げない。

第3章 会 議

(開 催)

第12条 この研修会は年8回とし必要時講師を招くことができる。但し、講師の選出に当たっては、会員の要望を優先させ役員会で決定する。

(付 則)

本研究会は昭和52年8月1日に発足す。

第2章 第9条①は平成元年4月22日 規則改正

第1章 第6条、第3章第12条は平成4年4月25日 規則改正

第2章 第9条、第11条は平成10年3月7日 規則改正

第1章 第6条は平成12年4月1日 規則改正

編集後記

このたび、熊本県滅菌業務研究会は、多くの皆様の暖かいご支援、ご協力のお陰を持ちまして、記念すべき200回を迎えることができました。また、その節目として、会報第4号を発刊する運びとなりました。病院における中央材料部業務は、院内感染防止上最も重要な役割を担っており、責任の重大さとともに誇りでもあります。滅菌業務が飛躍的変遷を迎えている今日、過去を振り返り、研究会の将来への節目として収録したものであり、次への飛躍発展への出発点となれば幸いです。

発刊に当たって、多忙な中、ご指導いただきました顧問の先生方に深く感謝いたします。

副会長 岩本 照記

熊本県滅菌業務研究会会報第4号

平成19年9月

発行：熊本県滅菌業務研究会
発行責任者 前田 幸子
編集責任者 岩本 照記

印刷：Next COMPANY **Secand** 株式会社セカンド
〒862-0950 熊本市水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F
TEL: 096-382-7793 FAX: 096-386-2025

企業展示一覧

(株)ホギメディカル
(株)セントラル・ユニ 大阪支社
クリーンケミカル(株)
サクラ精機(株)
(株)ユニファ
丸石製菓(株)
白十字(株)
テルモ(株)
アズテック(株)
ハクゾウメディカル(株)
乾商事(株)
ジョンソン・エンド・ジョンソンメディカル(株)
(株)三浦プロテック
川本産業(株)
(株)ジェイ・エム・エス
サラヤ(株)

広告掲載企業一覧

昭和医科工業(株)
九州ステリ(株)
(株)八尾日進堂
(株)ホギメディカル
(株)セントラル・ユニ 大阪支社
クリーンケミカル(株)
サクラ精機(株)
(株)ユニファ
丸石製菓(株)